

# へきけんニュース

ホームページ [https://www.hokkyodai.ac.jp/edu\\_center\\_remoteplace/](https://www.hokkyodai.ac.jp/edu_center_remoteplace/)  
メールアドレス kus-hekiken@j.hokkyodai.ac.jp  
☎ 0154-44-3291 FAX 0154-44-3292



背景は北海道教育大学釧路校

## 令和3年度へき地校体験実習教員養成課程 3キャンパス成果交流会を開催しました

### 北海道教育大学へき地・小規模校教育研究センター

令和4年2月22日(火)、本学へき地・小規模校教育研究センター主催で、令和3年度へき地校体験実習教員養成課程3キャンパス成果交流会を開催しました。

本交流会は、へき地校体験実習を受講し、4月から教職に就く4年生による成果報告を通して、交流を図ることを目的としています。

今年度は例年と異なり、4年生たち自身に報告をお願いしました。大学での4年間を振り返り、その様々な学びの中で、へき地校体験実習がどのように自己の成長に繋がったか、特に主免教育実習との関わりや比較、小規模性の特性、へき地校を通じた教師像、地域との連携の特性など、他の教育実習では感じられなかった点について報告していただきました。

当日は、川前へき地・小規模校教育研究センター副センター長が司会を務め、Zoomを利用したウェビナー形式で行われ、へき地・小規模校教育研究センター関係者を中心とした教職員並びに発表学生等約30名が参加しました。開会にあたり、玉井へき地・小規模校教育研究センター長より挨拶があった後、参加学生による成果報告を行いました。

#### 【発表者】

- ・札幌キャンパス  
安中詩織(令和元年度受講)  
近川亜希(令和元年度・令和3年度受講)
- ・旭川キャンパス  
橋本恵里香(令和元年度受講)  
石谷はるか(令和元年度受講)
- ・釧路キャンパス  
新田恋花(令和3年度受講)  
工藤のどか(令和元年度～令和3年度受講)

①4年生になって振り返ってみて、へき地校体験実習に参加し良かったと思うこと

- ・学校現場での経験を多く積むことができた
- ・教師と児童の濃い関係性について考えることができた
- ・様々な児童との関わりが、教師としての在り方を考えさせられた



▲当日の資料と発表者たちの参加の様子

## 4年間を振り返ったへき地校体験実習による学生の学びの成果

項目	4年次学生の発表の要点
へき地校体験実習参加目的と動機	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学校での実践体験を増やしたいと思った。</li> <li>○やがてへき地校にも勤めるのではないかと思い参加した。</li> <li>○札幌出身であるが、自分の出身校ではない地域の学校を見たかった。</li> <li>○色んな経験をしている方が教員採用試験に有利だと思った。</li> <li>○へき地校で指摘されるマイナス面は本当なのか、自分の目で確かめたかった。</li> </ul>
へき地校を通じた教師像	<ul style="list-style-type: none"> <li>○子供と教師の強い関係性を理解できた。</li> <li>○画一的ではない自分に合う教師像に出会うことができた。</li> <li>○子供との身近な関係の中で多様な子供の成長を支えることが重要だと学んだ。</li> <li>○子供の成長を支える教師の役割が見えた。</li> <li>○少人数では多様な意見を出しにくく、役割も固定化しやすいが、教師が参加した議論の出し方や縦割り班等の役割を多様化することで課題を克服することができることが分かった。</li> </ul>
主免教育実習との関わり	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学校での1日の流れや指導方法が分かり、主免実習にも発想を活かすことができた。</li> <li>○子供の人数が少ないので、子供との関係づくりを試行錯誤できた。また、その経験を主免実習にも活かすことができた。</li> <li>○子供に積極的に関わる方法を学んでから、主免教育実習に入れた。</li> <li>○主免教育実習と共通する部分と異なる部分をとらえることができた。</li> <li>○2年生で基本的な学校の観点を学んだ上で、主免教育実習に参加できた。</li> </ul>
へき地校の地域社会との関係性	<ul style="list-style-type: none"> <li>○地域とつながりが強く、子供を地域で守り育てていることを学んだ。</li> <li>○地域行事に参加し地域体験活動にも参加することの重要性を学んだ。</li> <li>○地域行事等で子供が主体的に動いている様子を学んだ。</li> <li>○地域を活かした学びの大切さを理解した。</li> <li>○地域調べ学習を通じて地域人材を育てていることが分かった。</li> <li>○保護者対応も教師の役割として必要であることを学んだ。</li> </ul>
へき地校の小規模性について	<ul style="list-style-type: none"> <li>○小規模だからこそできるきめ細かな指導が重要であることが分かった。</li> <li>○一人一人に合わせた支援の必要性が分かった。</li> <li>○子供の視点に立つことの重要性を実感できた。</li> <li>○少人数でできることを大人数でもすることが重要だと感じた。</li> <li>○少人数だと一人一人の学習理解度やエピソードが把握できると感じた。</li> </ul>
子供の自律について	<ul style="list-style-type: none"> <li>○子供への指導と自律とのバランスをとらえることができた。</li> <li>○間接指導の様子を見て、「自律的に学ぶ子供」を育成している様子が分かった。</li> <li>○自己調整力の重要性をとらえることができた。</li> </ul>
教職意欲について	<ul style="list-style-type: none"> <li>○子供と触れ合う中で、教職意欲は高まった。</li> <li>○自分の成長を実感することができた。</li> </ul>
大学の学修との関わり	<ul style="list-style-type: none"> <li>○へき地の実習と大学での様々な学びが結びつくことが分かった。</li> <li>○それぞれの学年で現場に出て大学と学校を行き来することが重要であると感じた。</li> <li>○校種の専門性を超えて共通する部分を学べた。志望する校種と違う校種についても学ぶことは大事だと思った。</li> </ul>

学生は各自で作成したスライドを用いて、実習参加の動機、実習校の様子、実習の体験また実習で感じた課題等の報告を行い、へき地校体験実習の成果や将来的な教員としての展望等を語ってくれました。トークセッションでは、各々のへき地校体験実習を通して教職意欲・教育実践力が高まったこと、そして実習の経験が進路選択に大きな影響を与えたことが述べられました。また、実際に赴任する学校と異なる学校種での実習が、経験の幅を広げるとも貴重な機会だったという感想もありました。

参加した教員からもの学生へのフィードバックや今後のへき地校体験実習への提言もあり、交流会は盛会のうちに終了しました。



## 「複式学級運営の手引き」が ラオス教育省から承認されました。

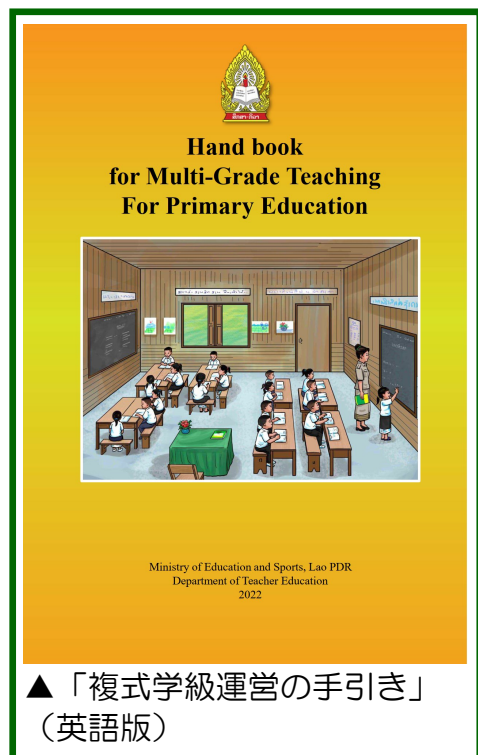
### 北海道教育大学へき地・小規模校教育研究センター

へき地・小規模校教育研究センターは、2018年から独立行政法人国際協力機構（JICA）が公益社団法人シャンティ国際ボランティア会に委託して実施している草の根技術協力事業「複式学級運営改善事業」に対し、継続して複式授業の教授法に対する助言、指導案作成等の支援に継続して取り組んできました。

その成果として、ラオス教育スポーツ相教師研修局（DTE）から、本センター刊行の「複式学級における学習指導の手引き」を参考に、ラオスの農村部の現状に合わせて開発された「複式学級運営の手引き」が、正式にラオス全土で使用される研修教材として承認されました。同所序文では、本センターへの感謝の言葉も述べられています。

このハンドブックで述べられている教授法は、既にラオス全国の教員養成校（TTC）で使用されている教師用指導書に記載されており、また、昨年12月からラオス教育省が全国で実施している複式授業と少数民族児童に対するラオス語の3日間の研修でも使用されており、確実にラオス全土に広まりつつあります。

今後も、本センターでは、へき地・小規模校教育の研究成果を諸外国に普及することで、地域間格差や学習指導法に課題を抱えている開発途上国等の教育水準を上げ、SDGs目標4「質の高い教育をみんなに」の実現に向けた国際社会への貢献に取り組んでいきます。





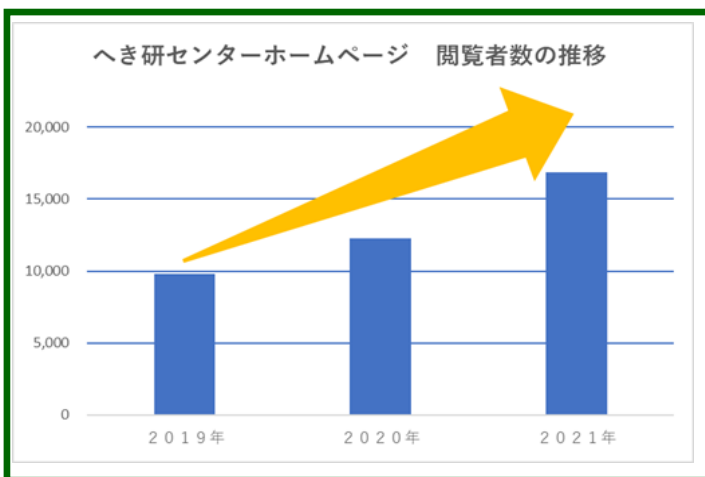
# へき研センターホームページの 閲覧者数が大幅に増加！

## 北海道教育大学へき地・小規模校教育研究センター

へき研センターホームページ(以下HP)の閲覧数について、2019年は9,803件でしたが、その後2020年は12,257件(前年比+25%)そして2021年は16,840件(前年比+37%)と年々増加しています。

これは、全国的な少子化・過疎化の中で、地方の学校の小規模化が進んでいる中で、小規模校化に対応した教育研究が強く求められていること、そして、当センターが公開する教育研究成果や活動に強い関心を持っていただいていることが理由と考えられます。

特に、当センターの各種刊行物への関心の高まりがHP閲覧数の増加を押し上げたと思われます。実際にHP上で「へき地・複式・小規模教育の手引」のデータ版をご覧になった教育研究者や教員からセンターへの視察、センター員の講演また教材の提供といった問い合わせが増加しており、学外からのへき地・複式・小規模教育への関心の高まりを実感しています。



▲(上)へき研センターHP



▲HPでは、各種講演会やフォーラムの参加申込もオンラインで受け付けています。



▲(左)同HPのQRコード